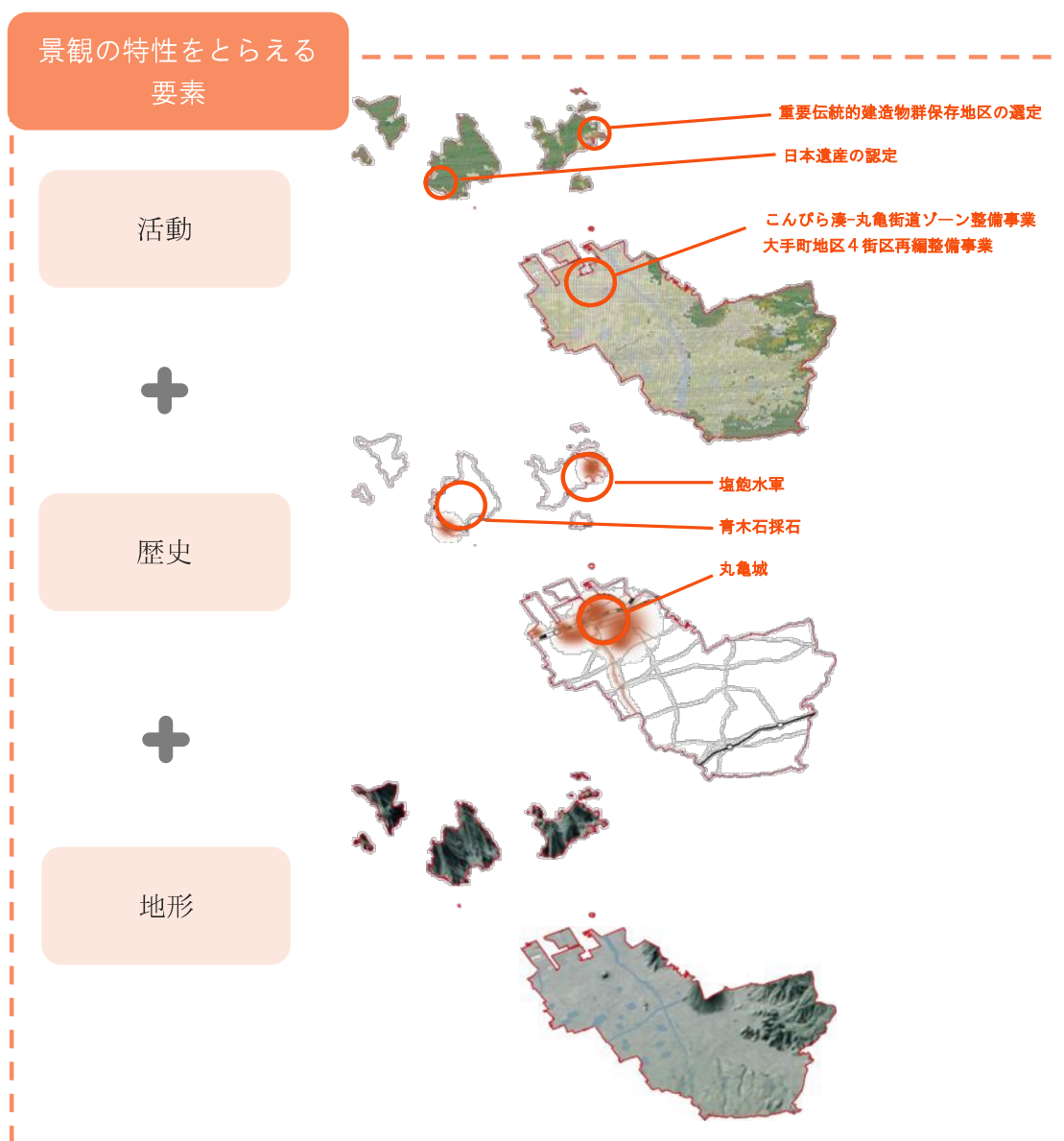


2 丸亀市の景観特性

2-1 丸亀市の景観を構成する要素

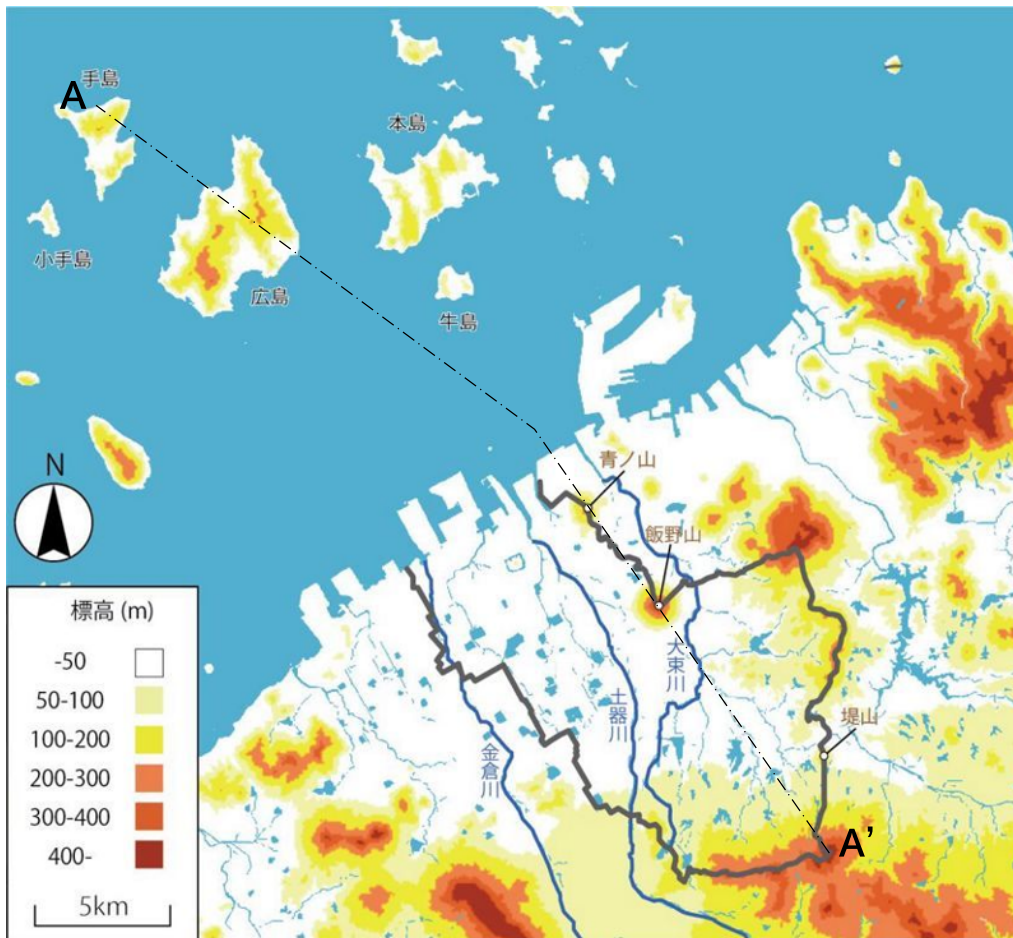
本市は温暖な気候と風光明媚な瀬戸内海に面し、恵まれた風土のもと讃岐平野のほぼ中央部に早くから開かれたまちである。広々とした田園が広がる平野部と、讃岐富士と呼ばれる飯野山をはじめとした山々が自然地形を形成し、景観の基盤となっている。時代の流れとともに市街化が進み、住宅地や工業地などの土地利用が図られた。それぞれの土地では様々な活動や人々の暮らしの営みがあり、これらが折り重なることで丸亀市の景観がつけられている。



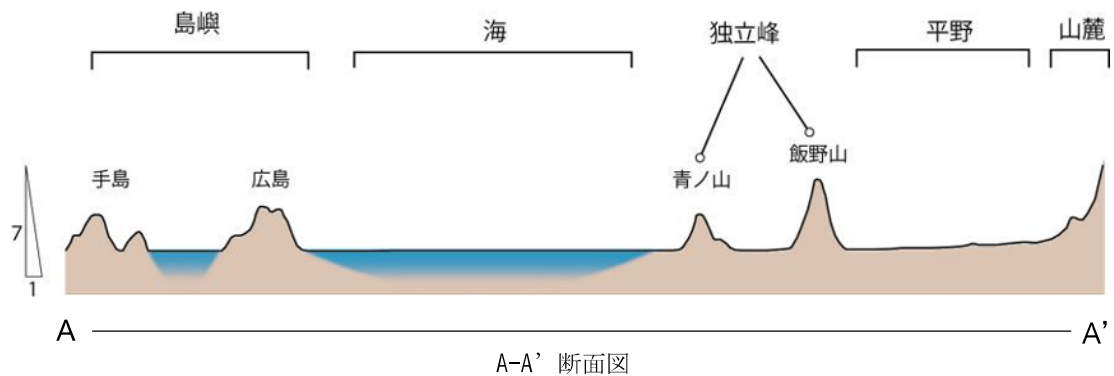
(1) 地形

本市の地形は変化に富み、北部の島嶼から瀬戸の海を越えると飯野山などの独立峰の特徴的な山容を持つ山々が点在し、土器川、大東川、金倉川などの河川が流れる平野が広がり、南部の綾歌三山（※1）の山麓にいたる。これら地形が景観の基盤を形成している。

※1：綾歌三山とは、大高見峰、猫山、城山のことを指す。（以下同じ）



景観の特性の基盤となる地形



①特徴的な独立峰の眺望

市内には、平野が広がる中に、飯野山を始め、青ノ山や堤山といった山頂部に丸みを持ち、連山ではなく独立した一つの山容を持つ独立峰が複数点在している。これらは市内のあらゆるところから眺めることができ、本市特有の景観を構成する要素となっている。



飯野山



青ノ山



堤山

②土器川がつくりだした丸亀平野の田園風景

讃岐平野の一部である丸亀平野は、香川県と徳島県の県境をなす讃岐山脈にある竜王山と第二の高峰である大川山の山間に源を発する土器川が主として形成した堆積平野である。丸亀平野には条里制に基づく整然たる格子地割が残っており、牧歌的な田園風景が広がっている。



格子地割が残る三条町黒嶋周辺



丸亀平野に広がる田園風景